



犬用 消化器サポート(高栄養)は、消化器疾患の犬や成長期・術後などの高カロリーを必要とする犬に与することを目的として、特別に調製された食事療法食です。この食事は、消化性が高い原材料を使用して、腸内細菌バランスを最適化するために可溶性食物繊維を配合しています。また食事量を減らしても必要なカロリーを摂取できるように、高エネルギー密度*1に調整しています。

この食事療法食の対象



● 下痢(体重減少がみられる場合や食事量を減らしたい場合) ● 消化不良、吸収不良

慢性の下痢や消化不良、吸収不良の際には、消化管に対する負担や刺激が少ない食事が推奨されます。本製品は高消化性で高栄養(かさが少ない)に設計しています。さらに本製品にはビフィズス菌や乳酸菌の栄養源となり、腸内細菌叢を整えるフラクトオリゴ糖やマンノオリゴ糖が含まれています。これらの菌の代謝産物である短鎖脂肪酸(酪酸、酢酸、プロピオン酸)は消化管粘膜の栄養源となり、健康な粘膜機能の維持に貢献します。



● 子犬の下痢

消化管に負担が少ない高消化性・高栄養(かさが少ない)に設計しているので、特にカロリー要求量が高く、消化機能が未熟な子犬の下痢に適しています。



● 大腸炎

消化管に負担が少ない高消化性・高栄養(かさが少ない)の食事が適しています。



● 回復期

体重の回復をサポートするためにエネルギー密度*1と嗜好性を高めています。

● 膵外分泌不全(EPI)

この病態では膵酵素剤の使用に加え、高消化性で高栄養の食事を併用する管理が推奨されます。

● 小腸内細菌過増殖(SIBO)

絶食時の犬の十二指腸あるいは空腸で細菌の数が著しく増加している状態を小腸内細菌過増殖と呼びます。上部小腸内に過度の細菌が存在する場合には、たとえそれが病原細菌でなくとも胆汁酸の非抱合、脂肪酸の非水酸化、アルコール形成、刷子緑酵素の破壊などが起こり、それが病原性発現機序として考えられます。この病態への第一選択は脂肪を制限した食事ですが、吸収不良や体重減少のみられる場合の長期管理には本製品のような高消化性で高栄養の食事が推奨されます。

*ヨーロッパにおける食事療法の規則*2に基づき、給与開始から1~2週後に、継続して使用する場合も定期的な診察を奨励しています。

*2: DIRECTIVE ESTABLISHING A LIST OF INTENDED USES OF ANIMAL FEEDINGSTUFFS FOR PARTICULAR NUTRITIONAL PURPOSES 94/39/EC

成分		単位/400kcal	
タンパク質	24.4g	銅	2.05mg
脂肪	19.5g ↑	亜鉛	21.92mg
食物繊維	6.2g ↓	ナトリウム	0.39g
灰分	6.6g	EPA+DHA	292mg ↑
水分	9.3g	L-カルニチン	—
炭水化物	36.0g	タウリン	0.19g
カルシウム	1.1g	アルギニン	1.62g
カリウム	0.58g	ビタミンE	58.5mg
リン	0.96g	ビタミンC	29.23mg
マグネシウム	0.09g	ビタミンB群	5.70mg
鉄	18.12mg		

↓やや制限 ↓↓制限 ↑やや強化 ↑↑強化



規格: 1kg・3kg

代謝エネルギー ... 411kcal/100g ↑*1

1日の給与量の目安		1カップ=200cc										
成犬の体重(kg)	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	30	40
標準	55g 0.7カップ	90g 1.1カップ	120g 1.5カップ	145g 1.8カップ	175g 2.2カップ	195g 2.4カップ	220g 2.8カップ	245g 3.1カップ	265g 3.3カップ	285g 3.6カップ	385g 4.8カップ	475g 5.9カップ
調整範囲	最大 65g 0.8カップ	105g 1.3カップ	145g 1.8カップ	175g 2.2カップ	205g 2.6カップ	235g 2.9カップ	265g 3.3カップ	290g 3.6カップ	320g 4.0カップ	345g 4.3カップ	460g 5.8カップ	570g 7.1カップ
	最小 45g 0.6カップ	70g 0.9カップ	95g 1.2カップ	115g 1.4カップ	140g 1.8カップ	160g 2.0カップ	175g 2.2カップ	195g 2.4カップ	210g 2.6カップ	230g 2.9カップ	310g 3.9カップ	380g 4.8カップ

ここに表示されている給与量はあくまでも目安です。個体差や活動量に応じて最大値と最小値の範囲内にて調整を行ってください。



原寸大

使用が推奨されない病態等

● リンパ管拡張性腸炎

高脂肪の食事は推奨されません。

● 低脂肪食が推奨される病態

高脂肪の食事は推奨されません。

● 膵炎

高脂肪の食事は推奨されません。

原材料

米、家禽*肉、動物性油脂、コーン、加水分解動物性タンパク、酵母、卵パウダー、ビートパルプ、大豆油、セルロース、魚油、フラクトオリゴ糖、サイリウム、酵母エキス(マンノオリゴ糖含有)、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、アミノ酸類(DL-メチオニン、タウリン)、ミネラル類(K、P、Zn、Mn、Fe、Cu、I、Se)、ビタミン類(コリン、E、C、パントテン酸カルシウム、ナイアシン、B6、B1、A、B2、B12、D3)、保存料(ソルビン酸カリウム)、酸化防止剤(BHA、没食子酸プロピル) *3 鶏・七面鳥
※調達の都合により、原材料を変更する場合がございます。

追加情報

- 急性疾患の場合、腸管絨毛の再生を考慮した栄養管理は、少なくとも3週間続けることが推奨されます。
- 慢性疾患の場合は、多くの場合、生涯にわたる給与が推奨されます。
- 消化能力を最大限引き出すためには、1日の給与量を少量ずつ数回に分けて与えることが推奨されます。
- 一過性の下痢のための食事療法食には、「犬用 満腹感サポート(ドライタイプ)」もあります。

- 食物繊維の増量が好きしい場合の下痢には、「犬用 消化器サポート(高繊維)(ドライタイプ)」があります。
- 成犬および成長期の子犬の栄養要求を満たしています。
- 本製品の各適応に対して選択いただける他のパラエティについては、「疾病からみる適応表(P.7、P.8)」をご覧ください。